

# ヘレニズム～イスラーム考古学研究 2021-2022 刊行にあたって

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-04-27 キーワード: 作成者: 足立, 拓朗 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00069439">http://hdl.handle.net/2297/00069439</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# ヘレニズム～イスラーム考古学研究 2021-2022 刊行にあたって

足立 拓朗

(金沢大学 古代文明・文化資源学研究所)

この研究論集はヘレニズム～イスラーム考古学研究会で発表された研究を基に編集されている。本論集は、ヘレニズム～イスラーム考古学研究会で発行されていたが、2019年度から金沢大学国際文化資源学研究センターで発行することとなった。そして、『ヘレニズム～イスラーム考古学研究』2019 という変則的な名称になった。この年度の論集は、それまでの号数では26号に相当する。

2020年度の論集も国際文化資源学研究センターで発行したが、コロナ禍のために研究会を開催することはできなかった。2021年度には10月16、17日に金沢大学で日本考古学協会金沢大会が開催されたためである。ただ、年度末ぎりぎりの2022年3月27日に第27回の研究会をオンラインで開催することができた。2022年度は第28回の研究会を12月4日に開催した。そして、今号は2021年度と2022年度を併せた論集となった。そのため、2022年度は久しぶりに研究会と論集の両方を実施することができた。

金沢大学では、2021年度に国際文化資源学研究センターが古代文明・文化資源学研究センターに改称し、また、2022年度にはさらに古代文明・文化資源学研究所に改称した。そのため、今号の発行主体は金沢大学古代文明・文化資源学研究所となった。これまで今回の運営には紆余曲折があったが、この研究所体制の中で安定して運営していくことを期待している。